

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームにのみの家
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	津市新家町1488-1
記入者名 (管理者)	杉井 豊 (管理者)
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域との連携について記述されていない、加筆、修正したい。
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	玄関入り口にも掲示されているが、家族、入居の方々にも理解、認識をして頂けるよう心がける。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	限られたご近所との交流にとどまっている。更に②輪を広げ地域に期待されるよう力を養って生きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所のお子さんが尋ねて下さったりして入所の方を喜ばして下さるが、広く気楽に来訪が受けられるよう開放してゆきたい。
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	職員の熱望にも拘らず、施設空間にめぐまれず、地域のみなさんを招じての行事ができていない。工夫が要る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献の必要性を認識し、会議の場でも意見が出るが、人員構成の不備、力量不足もあって、十分な実行が伴わない。	○	まず、できることを各自が考える必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は、理解され、指摘された事項の改善が図れるよう会議上などで話し合われている。	○	運営者の理解が必要になる事項も多く、一体となつての取り組みが期待される。
	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、義務づけられており、自治会に入会したのを機会に開催に向け、運営者ともども実行に努めなければならない。人選を依頼しており、近々開催の運びである。	○	地域の役員、ご理解を頂いておる有志の方々に協力方依頼中。
	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定手続き等を通じ処遇一般についても、指導を頂くなど協力を得ているが、十分とは言えない。	○	運営推進会議の開催が急務となっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入所者家族からの問い合わせ等にも、説明、相談に積極的に応じ、地域サポートセンター、対応できる機関の紹介につとめている。	○	専門分野についての知識を深め、具体的対応ができる力を養う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関心を持ち、見過ごすことのないよう、認識を深めていくよう努める。	○	虐待の実態に対し、正しい認識、強い関心をいつも持ち続けるようつとめる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分理解、納得いただいた上、契約、解約が為されよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>事後、疑問、不安が起らないよう利用者、家族への説明に努める。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口、相談対応者を決め、利用者、家族に見易いところに明示し、気軽に申し出られるよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>可能な限り、面会、その他機会を捉え、利用者、家族の意見、気持ちを伺うように努めている。</p>
	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会来訪時、行事その他で連絡時、積極的に意見など聴取に努め、月ごとの にもみり などを利用し連絡、報告に努めている。</p>	<p>○</p> <p>金銭管理については、月ごとの収支報告、健康管理については、医師往診時などきめ細かい連絡、報告を心がけている。</p>
	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱を利用してもらったり、面会、所要での来訪時、いつの場面においても、意見が伺える体制を明示し、職員にも傾聴する心構えにつき共通の認識を持つよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>意見、不満、苦情は、独り占めしないで、職員全員が共有認識するため、記録し、会議、ミーティング時等、周知をはかる。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各会議、ミーティングにおいて話し合い、それぞれの意見が聞かれ、運営に役立てられている。</p>	<p>○</p> <p>それぞれの意見に耳を傾け、取り上げることは、職員のやる気、を高揚させる。積極的、前向きに、対応したい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>限られた職員での日々の業務は、予想外の対応を迫られることで当惑し、利用者に迷惑を掛けることになる。かくユニット共通の問題として、常に状況を共通認識いつでも協力できる体制を作っておくよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員の共通認識、協力により円滑に運ばれている。</p>
	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係、が保たれ穏やかで安定した生活が乱されないよう極力移動、変動を避け、それによるダメージ回避に努めている。</p>	<p>○</p> <p>安心、信頼の関係が損なわれないよう、配慮していく。グループ</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>酒</b>			
	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	資格取得希望者の勉強会、資質の向上を目指した種々の研修会それぞれにテーマを選んで継続的にすすめたい。
	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	機会を広げ、職員の啓発、意識の向上を図って行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	入居者の加齢に伴う様態の変化、勤務体制による加重負担の増加により、ストレス軽減への取り組みが望まれる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	和顔愛語、和やかな笑顔、優しい言葉、心こもったサービスに共通の認識を。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	職員の充足事情で許す限り、努力したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	家族の意見、気持ちと、入居希望者双方の希望、要望を等しく聴く努力が必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野にたち、将来も考慮に入れた上、適切なサービスを本人の意見を聴き決める。	○	現時点のみでなく、将来に向けての配慮も怠らないようにしたい。
	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	カンファレンスで決定に入る前に、余裕を持って、環境に慣れ、安心して生活できるよう努め、本当に必要なサービスについて職員で話し合いけんとうする。	○	入居時点では、雰囲気になれず、本人の気持ちも定まらず見誤ることがある。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も一緒に喜怒哀楽を共有することで、お互いを知ることができ、強い信頼関係が築かれる。本当にその人にとって必要なものも気づくことができると考え、努力している。	○	忙しい業務の中で、つい表面のみで、全体像を見損なう恐れがある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する機会、時間を持つことに努め、家族が利用者に対して抱く思いを共感できるよう勤めている。	○	利用者の現状把握に努め、将来に向けての支援につき忌憚のない意見が交し合える信頼関係が築かれるよう努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は本人、家族の関係の理解を深めるように努め、誤りのない支援を心がけている。	○	現時点のみでなく、将来に向けての配慮も怠らないようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活暦の理解し入居以前の生活を知ること、馴染みの人や場所との関係を尊重していきたい。	○	高齢者は、変化への対応が不得手で好まれないことが多い。不安不穏の原因にならないよう心がけたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	寄り添い合う人があれば、安心していられる例をよく見受けま。席、部屋、順番決定など気配りに心がけている。	○	みだりに、不必要に変化を強要しないよう工夫する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院、施設、在宅など退去のあとも、本人、家族の意向を尊重しながらかわりを持ち、支援を望まれば応えるよう心がけている。	○	いつまでも頼られ信頼される関係でありたいと願っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聴きだすことが不可能な場合、毎日の生活状況を観察する中で本人本位の立場から支援策を皆で相談し合い、本人、家族の了解のうえ立案している。	○	日頃の信頼関係が基盤となるので、望ましい関係が作られていることが必要となる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦の大意は、入所時、記入をしてもらっているが、入所後日々接するなかで、馴染みの関係の中で、知ることも多い。何事も話し合える関係の中から把握できるように努力したい。	○	本人ばかりでなく、面会者、友人、家族などからもヒントを得ることも多い。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活の連続の中に、現状の把握は勿論大切だが、変化の予兆のようなものを見逃さないよう気をつけてゆく。	○	細やかな気づき、気づきの変化などの、気づきにつながる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	時間、場所等で、医師、家族の参加が困難な場合、前もって意見を徴しておくなど工夫が必要となる。	○	本人は勿論、家族の意向を聴き、本人の了解を得るのが大切。
	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直し、目標への達成度を確認し、計画が実情にマッチしているか検討をおこなっている。	○	家族とは、機会を求め日頃から連絡を密にし現状、変化の様子などを逐一報告できるよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に介護記録、個々のカルテに個別の記録を記し、皆が閲覧することで、情報の共有に努めている。	○	申し送り時に、それぞれの気づき、些細な変化など伝達しあい対応に遅れがないよう努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ほぼ、施設内における介護支援にとどまり、多機能性は生かされていません。	○	職員の充足を図り、力を養い多機能を活かした支援ができるようつとめたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部協力支援(ボランティア、文化、教育等)を行っているが、十分とは言えない。	○	職員の充足を図り、力を養い幅広い活動が可能になるよう努力したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デーケアの利用、リハビリ施設の利用等の必要、本人の希望などに沿って参加を勧めている。	○	介護保険法上の制約、送迎負担の問題がクリアーできた方については実施されている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の要望により対応している。	○	本人、家族の意向を幅広く把握できるよう努めたい。
	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所の管理医等との、関係を密にし、適切な支援を目指している。	○	管理医の定期的往診により、医療面での安心が得られている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症専門医、管理医の連携強化により、実情に合った適切な支援を実施していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	常勤の看護師の配置が望ましく雇用にむけすすめている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院、退院の支援には、管理医の協力、援助をうけている。
	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	対応可能な体制作りが、必要と思われます。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	対応可能な体制作りが、必要と思われます。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	本人、家族の意向を尊重し、本人が新しい住環境に安心して生活がエンjoyできるよう支援につとめる。ふ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	職員にも徹底、在所期間中、退職してからも、職務上の秘密の保護には誓約書を提出させるなど格別の注意をはらっている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	個々それぞれの意志、能力、に「合わせた援助に努める。
	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	個々それぞれの意志、能力、合わせた援助に努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	訪問美容師もいろいろの注文、好みに応じた対応を心掛けている。
	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	仕事は、準備、後片付け、などトラブルのない様気配りしている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	買い物に外出したりした時購入したり、家族、職員が調達している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン、習慣を理解することで、援助に工夫を心がけている。	○	一人ひとりの排泄パターンの把握、尿量のチェックが大切。
	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り、あわせている。	○	十分な対応はできていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほぼそれぞれの状況に応じた支援がなされている。	○	身体状況、習慣に差があり、支援のあり方、対応の仕方にも工夫が要る。
いる。				
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を理解、能力を生かして、役割分担して協力してもらっているが、意欲などにも差があり、トラブルに気を使っている。	○	対抗心が協調を妨げることもあり、配慮が要る。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解度、希望などにより、可能な限り、おうじている。	○	物盗られ妄想があったり、おき忘れ、しまい忘れなど、一人ひとりの状況把握が必要となる。
	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限りあわせている。	○	何度も散歩に同行することもある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物、外食など、希望に沿えるよう努めている。	○	買い物のための外出希望、墓参りなど。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人等、希望により気軽に電話取次ぎを引き受けるなど、極力利用者の便宜を図っている。	○	家族の理解、協力により、広く支援してゆきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に訪問が受けられるよう、対応を心掛けている。個室の利用、ホールでの歓談等協力している。	○	連れ立って外出したり、近所の散策等温かな対応を心掛けている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の精神を理解しており、日々の実践に生かしている。	○	身体拘束マニュアルによって確認に努めている。
	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険性がなく、可能な範囲で開放されている。	○	日々の利用者の様態にも差異があり、実情に合わせ全廃に向け努力している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者各人の日常生活上の習慣を念頭に置き、様子観察を怠らず、安全に配慮している。、、	○	日々様態変化の大きい人もあり、常に観察、注意が必要。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、針等日常的な道具にも、危険が潜んでいる。取り扱いには十分な配慮、管理が必要となる。	○	自分で自由に管理したいというは自主、自立の気持ちを尊重しながら、危険防止の見守りは怠れない。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況、習慣など理解、認識し、事故防止に細心の注意を払っている。	○	観察、注意が肝心。職員めいめいが、強い自覚と、相互協力して事故防止に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防士による救命講習など対応の訓練を行っている。	○	救命講習は、先回一部の職員に限られたので、次回は全員参加を予定している。
	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、通報訓練を実施するとともに、日頃災害対策に意をつくすよう心がけ、地域の人々の協力方についても、自治会中心にお願いしている。	○	夜間は特に、職員の体制が非力であり、全職員のバックアップを期待してもなお厳しい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケースに応じ、家族に実情を説明し、事故回避について、理解、協力を願っている。	○	転落防止のため、床で就寝する。履物の工夫をする、車椅子、歩行器、老人車の使用につき吟味する等相談し合う。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に観察を蜜にし、気づきを大切に、申し送り等を通じて、漏れなく情報が共有できるよう留意している。	○	多様な勤務なので、継続的、漏れなく、情報伝達ができるよう配慮している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医の指導、職員の自覚等相俟って、服薬のミスなく、適切な援助ができるよう努めている。	○	日常利用者の観察を蜜にし、服薬内容の変更後など様態の変化を見逃さず、
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	単に服薬に頼るのでなく、生活習慣を見直したり、飲食物の工夫を試みるなど解決法を注意深い観察を続けながらさぐっている。	○	薬にも人により適否があり、日日の観察をもとに、医師の指導により適切な解決法を見出したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立度、能力の差に配慮、可能な人についてはできるだけ自力で、習慣として為されるよう援助していく。	○	個々の能力に応じた援助をケアプランに沿って実行したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
	食事、水分の摂取量を継続的に記録、観察し それぞれにあった支援を心掛けている。	○	自室で水道水を飲む方もあり、水分摂取量チェックにも注意が必要である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		
	マニュアルに則り、医師、看護師等の協力により適切な、対応を心掛けている。	○	日々の生活の中で、機会を捉え、自覚、認識をふかめて行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
	衛生管理には、意を尽くし疎漏のないよう留意している。	○	調理従事者には、検便検査を毎月実施、調理場への部外者の立ち入り禁止、調理具の衛生管理に留意している。
のないうよう			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
	建物周囲の空き地を利用し、入所者のリハ活動の一環として園芸、野菜づくりを楽しんでもらっている。	○	環境条件に恵まれず、十分にできないが、工夫により、皆が楽しめる空間を拡大していきたい。
	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
	季節の花を飾ったり、入居者の作品を掲示したり、除湿機、加湿器等を設置、よりよい環境整備を心掛けている。	○	建物の構造上、制約があるが、工夫により、より良い環境づくりに努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
	共用空間に乏しいが、屋外にチェア、テーブルを置き語らいの場を作るなど工夫している。	○	空きスペースに恵まれず、知恵を出し合って対処したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		○ 柵にカーテンをつるしたり、絵画、写真を飾ったり、希望に沿う居室整備に努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		○ 各人、各人の希望に沿って、冷暖房の温度調節など納得の上きめている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		○ 換気については、窓の全開放ができず、工夫したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		○ 一人ひとりの力を見極め、意欲が引き出せるよう支援してゆく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		○ 花作りの種類を増やしたり、野菜作り、など、相談しあって、より楽しみを広げてゆきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

協力医と24時間在宅医療が行える体制を整えており、緊急時入院が必要な場合も対応が可能で、安心して療養を継続できます。